

唐石尾石鍋製作所跡の踏査結果について －形上湾における石鍋製作所跡－

東 貴 之

1. はじめに

2012年7月に長崎市琴海（旧西彼杵郡琴海町）在住の方より唐石尾石鍋製作所跡の場所が不明との事で長崎石鍋記録会問い合わせがありました。形上湾を中心とした地域が気になっていなたが、今回の問い合わせを機に踏査に踏み切りました。記録会としても琴海地区の踏査事例はほとんどなかったので、今回の踏査はとても勉強になりました。



第1図 唐石尾石鍋製作所跡位置図

2. 唐石尾製作所跡に至るまで

踏査は8月15日の午後に実施しました。午前中に私用がありましたので、それが終わって、そのまま当製作所跡の踏査に向かいました。大平橋を渡ってすぐ農道を北上、川を西側に見ながら公民館を通過、その後、農道は二手に分かれますが、その付近にビニルハウスに向かう小さな道があります。小さな道の途中の山道を入ることで当製作所跡に行くことができます。山道は北の谷へ向かって続きますが、製作所跡は手前の急斜面を登りながら尾根へ向かい進みます。尾根沿いをしばらく歩くと使用されていない畑があります。ここはスギやヒノキが植林されていますが、ここから北東に向かうと目の前に原生林の空間が広がります。ここに当製作所跡が存在します。ほかの製作所跡にもいえることなのですが、ほとんどの場合、植林地帯ではなく原生林の中に製作所跡があります。詳しいことはわかりませんが、何かあったのでしょうか。



写真1 大平橋付近



写真2 河川写真
(右側が農道です)



写真3 山道写真(坂道の途中右手あります)

3. 唐石尾製作所跡の現状報告

製作所跡の決定要素として、

- ① 壁面に石鍋の切り出した痕跡があること
- ② ズリ（廃石）の痕跡があること
- ③ 製作所跡周辺に石鍋未製品があること

があげられます⁽¹⁾。

当製作所跡は①と②が確認されました。③は認められませんでした。おそらく戦後、採掘業者が持ち去った可能性が高いでしょう。このことは西彼杵半島内の製作所跡すべてに言えます。未成品等の遺物は持ち去られたらどうすることもできません。今回は時間的な制約があったため未製品の詳細な散布状況の確認はしませんでした。今後、数回にわたる踏査で未成品の有無を調べる必要があります。

踏査では北-北東向きの製作所跡が確認されました。周辺は岩盤の路頭が目立ちますが、西彼地区や西海地区・大瀬戸地区・外海地区でみるような大規模なものではなく、やや規模が小さい製作所跡であることがわかりました。製作所跡は説明の関係上、北向きと北東向きに便宜上の分類をさせていただきます。

北側の製作所跡は荆棘繁茂のため詳細な観察ができませんでした。石鍋のはぎ取り痕は遠くからの目視で壁面にノミ痕が認められたので、未成品をはぎ取った可能性は高いです。この段階で断定はできませんが、製作所跡として推定しても問題ないと思われま

す。北東側の製作所跡ははぎ取り痕が確認されました。壁面はコケの付着でノミ痕の確認が困難でしたが、コケのない部分でその痕跡を確認しました。今回、詳細な観察や計測は行っていません。したがって、石鍋のはぎ取り痕の規模は不明ですが、私の目測では直径30～50cmの方形割付が確認されましたので、縦耳型石鍋の段階にはぎ取りが行われたと思われま

す。鏝付型石鍋の初期段階のはぎ取り法である円形割付は確認されなかったのですが、製作所跡の存続期間は10世紀前半から12世紀ぐらいと考えられます。ただし、未製品は周辺部で確認されなかったため存続期間は絶対とは言えません。そこところはご理解ください。また、写真に見るように一部のズリを掘り返してため池状にしています。現在、ため池は使用されていないと思いますので、正式な調査時には水を抜いて詳細な観察を行うことが必要でしょう。

4. おわりに

今回、製作所跡の存在を確認するために踏査を実施しました。しかし、時間的な制約があったため、ここでは詳細な観察は行っていません。今後は製作所跡の記録撮影を行ったのち、詳細な観察を行う予定です。唐石尾石鍋製作所跡を含めたこの一帯は形上湾の付根にあたり、未製品の搬出港としては良好な港の存在が推定され、さらに、ここから大村方面等へ未製品を搬出した可能性が考えられます。大変興味あることばかりですが、地道に琴海地区を調べて、少しずつ疑問点を解決したいと思います。

(2012年9月15日)

【註】

(1) 活水女子大学 下川達彌教授のご教示による。



写真4 製作所跡 遠景



写真5 製作所跡 近景



写真6 はぎ取り痕①



写真7 はぎ取り痕②



写真8 はぎ取り痕③



写真9 はぎ取り痕④



写真 10 大村・東彼杵方面（又兵衛付近から撮影）



第 2 図 唐石尾石鍋製作所跡位置図（縮尺不同）

青で記した範囲は長崎県教育委員会で作成された製作所跡，赤は今回の踏査で確認された遺跡の範囲です（たぶん、間違いではないと思いますが）。青と赤の実距離は約 150m の差があります。ここだけに限った話ではないですが、石鍋製作所跡の位置の大半が実際の場所と異なる位置で表記されています。当時、遺跡地図の作製は短期間で行われたそうです。そのため位置の精度が下がった可能性が高いと考えられます。このことは仕方がなく、私がしても精度は下がったでしょう。問題はもう一度、遺跡地図の精査をすることが必要ということです。研究者や一般市民に正確な情報を提供するための遺跡地図は限界がきており、GPS 等を用いて正確な地図を作成する事が急がれます。長崎石鍋記録会では可能な限り正確な位置情報を用いて地図を作成していく予定で、そこで得られた結果はホームページで公開するように努めます。みなさんの理解と協力をお願い致します。